

平成17年10月3日

各位

神奈川県高座郡寒川町倉見3
新日鉱グループ

 日鉱金属加工株式会社

平成17年下期の金属加工製品の生産予定について

品目	単位	平成17年下期 生産予定	平成17年上期 生産実績見込	平成16年下期 生産実績
伸銅品	t/期 (t/月)	20,460 (3,410)	18,840 (3,140)	17,832 (2,972)
特殊鋼 製品	t/期 (t/月)	2,940 (490)	1,980 (330)	4,494 (749)
合計	t/期 (t/月)	23,400 (3,900)	20,820 (3,470)	22,326 (3,721)
(参考) 製品長さ計	万m/期 (万m/月)	3,480 (580)	3,060 (510)	3,360 (560)

【解説】情報通信（IT）機器、デジタル機器関連需要については、16年上期後半から調整局面に入り、17年上期まで低調に推移してはいましたが、在庫調整もほぼ一巡して17年下期は回復すると見込まれます。また、電気・電子機器の高機能化、多機能化の進展に伴い、電子部品に求められる品質要求は更に厳しさを増してきており、素材に対しましても、高強度、高導電性、高屈曲性の要求が強まってきております。そのため、弊社の主力製品であるC7025、ハイパーシリーズ（ハイパーりん青銅、ハイパーチタン銅）および圧延銅箔等の需要は、増加傾向で推移していくものと見込まれます。さらに、中国市場展開や自動車市場向け製品（NKC164、ハイパー黄銅、ハイパーリフローすずメッキ）の拡販も着実に進展しております。この結果、伸銅品については対前期比9%増の増産を計画しております。

特殊鋼製品については、今年に入りブラウン管メーカーが大きく生産調整を実施したことから、ブラウン管向け電子銃用ステンレス、パソコンモニター用アンバーが大幅な減産を余儀なくされました。下期においては、液晶パネルの低価格化進行の影響はあるものの、在庫調整も進むことで、実需レベルに向けて徐々に回復していくものと見込んでおります。

この結果、金属加工製品全体では、対前期比12%増の23,400t/期の計画となりました。

以上

お問い合わせ先： 日鉱金属加工株式会社
経營業務部（総務担当）矢澤、平井
：0467-75-0611